

オンリーワン



バリアフリー
ペーパー

2月号

平成 24年2月28日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。



毎号の事ですが、無事に機関誌が刷り終わると“ほっ”とします。機関誌は、快く取材に協力してくれる方々がいて、編集委員が取材をし、記事を書き、パソコン編集し、刷り上った機関誌を一枚一枚封筒に詰める作業をして完成です。各々が締め切りまで一生懸命取り組み、思いのこもった機関誌に仕上がります。今後も、素敵な人や、活動紹介等、幅広く大歓迎でお待ちしています。ぜひご一報下さい。編集委員が元気に取材に参ります！（支援センター 久保）

ボランティアセミナーに参加して



西条小学校での様子



2月と10月、地元の小学校と一般住民向けに「ボランティアセミナー」が開催されました。知的障害者更生施設「星の里」が主催。講師として、タイの障害者支援をされている中山さんと大垣内さん、タイからの留学生ガンちゃん（22）が来てくれました。

中山さんと大垣内さんは、NPO法人ヒーリングファミリー財団で活動しています。

中山さんはタイに活動拠点をもち、障害者と共にさをり織りのひまわりコースターやゾウのアプリケーションシャツを作り販売したり、小さなカフェを営む等して障害者の働く場を提供しています。

大垣内さんは日本で活動し、不要になった車椅子を小学生に磨いてもらい、大学生が手荷物として車椅子を搬送し、タイの子供達に届けてもらうコーディネートを行っています。

ガンちゃんは、高校でボランティア活動をしている時に中山さんと出会い、大学に入り留学生として日本にきています。今後も中山さん達とボランティアをしてくれるでしょう。

同じ熱い思いを持ち活動している人達が集まることが実現した、素敵な機会になりました。

私も、神拝小・西条小に行き小学4年生の児童に車椅子の体験とボランティアについてお話しをする機会を頂きました。子供達には、同じ年の時、身支度も出来なかった私が親元を離れて寮に入り、みんなより早起きして靴下を履いていた話や、誰でも出来るボランティアは声をかける事だと話しました。「まずは挨拶から始めましょう」と伝えたところ、偶然出会った子供達が「徳増さん、こんにちは」と遠くから声をかけてくれました。（徳増）

（イラスト しんすけ）





当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)

病と向き合いながら小さな目標と趣味に喜びを感じ、春を待つ！

今回は、誰もが一度は通るかもしれない「突然の病」を受け止め、闘病生活を送りながら、趣味や小さな目標にたゆまぬ努力をされている西条市在住の伊藤丈夫さん(66歳)にお話を聞かせて頂きました。

私が伊藤さんと出会ったのは、障害者パソコン講座が始まった去年の6月。パソコンは初級者でしたが取組む姿勢は本当に真面目でした。とてもほがらかで素直な人柄に惹かれ、サポートに付いていた講師たちも「一生懸命教えてあげなくては！」とやる気が出るような、人の気持ちを動かすエネルギーのある人でした。

病と「闘う」・自分と「闘う」

伊藤さんが自分の病を知ったのは、会社の定期検診の時。大腸癌が見つかったそうです。その時は「どうして自分が？」と思う気持ちで、言い様の無い不安が湧き上がってきたと、当時の事を振り返り話してくださいました。

長年勤めた会社を、闘病のため退職。第1回の手術はH22年7月に行いました。その時主治医が「1年したら再発します」と言ったとおり、1年後にポリープ発生。

一時は65kgだった体重も42kgまで減ってしまい、その時は「もうだめだ・・・」と思わざるを得なかったそうです。今までできていたことができなくなり、「家族に手間をかけてはいけない」と思い詰める気持ちや、「寝たきりになってもストーマ(人工肛門)があるから少しは介護がしやすいか」と楽観的な考えが交錯する日々もありました。

自分自身が病気になってみないとわからない葛藤やつらさが伊藤さんを襲いました。

また「抗がん剤を使用すると、昔の持病が出てくる」と主治医が言っていたように、喘息とリウマチの症状がでてきたり、傷口が痛んだりすることで、身体的もつらい状況がしばらく続きました。

そんな葛藤の日々を送りながら、伊藤さんは去年の夏、ポリープが再発したころから障害者パソコン講座を休んでいました。「障害者パソコン講座は、のんびりマイペースで楽しい場所にしよう」というのが基本スタンスですし、「参加者がお休みするのは良くある事」と、特に気に留めてはいませんでした。

11月の講座に再び伊藤さんが来られた時、顔色が悪く痩せていたので、失礼とは思いつつ訳をお聞きし、びっくりしました。先月迄ポリープの手術をして入院していたのです。大手術を乗り越え、再び奮起している伊藤さんの姿に感動を覚えました。それからの伊藤さんは手術後とは思えないほど精力的に講座に通い、自分で年賀状を作成しました。その時の伊藤さんの嬉しそうな笑顔は忘れる事ができません。



インタビュー風景



パソコン講座の様子



(それぞれの闘い)

「昨年より顔色も良くなり、とても病後とは思えませんね！」とお顔を覗いたら「誰でも病気にはなりますが、それに負けない【自分なりの生き方】で、これからも目標を持って生きていきます！」とおっしゃいました。伊藤さんの芯の強さを感じる瞬間でした。

障害者パソコンのスタッフも機関誌オンリーワンのメンバーも、それぞれ病や障害と向き合い・受け止め・葛藤しながら様々なことにチャレンジしています。人それぞれの道程がありますが、世の中には自分の状況を受け止められない人もいらっしゃいます。

今回の取材を通じて、病と向き合う伊藤さんから勇気や希望、そして誇りをもって生きようとする「エネルギー」を分けていただいたように思います。

(これからも一步一步)

伊藤さんの趣味はカメラの撮影です。カメラ片手に散歩をしつつ、西条市内の名所や風景をカメラに収めています。これから春を迎え、自分のペースで歩いてゆく伊藤さんの姿にお目に掛かれる事を楽しみにしながら、私達も一步一步、前進してゆきたいと思います。



【伊藤さんのベストショット】

撮影日は2月4日の立春、厳しい寒波でブルブルの寒さ。一方大地の自然は時節通りに春を告げており、菜の花が満開です。まさに立春の日の一枚でした。(場所：西条市氷見)



「鬼瓦みこし」

2月3日節分大祭。今治にある「遍照院」にお参りに行きました。やくよけ大師と呼ばれるこのお寺は、弘仁6年（815年）、弘法大師が42歳の時、厄除けの秘法を残したと伝えられるお寺です。豆まき・餅投げのあと、42才厄男が担ぐ「鬼瓦みこし」が奉納されている様子です。大変大勢の人で賑わっていました。

撮影：のぶちゃん

投稿コーナー「たしっぽ」

きつりつ
枝の葉を振るい落として屹立す
けやき
宮の樺は空を仰げる

美奈子

※神社の境内に立つ大きな樺の木の葉がすっかり落葉し、枝々の間から青い空が透けて見え、樺がのびのびと空を仰いでいる様子を詠みました。

山田のひなたぼっこ

年末年始に七草のバイトに行ってきました。ビニールハウスの中はとても寒いと聞いていましたが、案外私は大丈夫でした。七草粥といえば、無病息災を祈って1月7日に食べるお粥のことですね。

私は、すずしろ（大根）担当でした。小指以下は規格外で、手で回しながら葉っぱを除けていく作業。おやつの時間とお昼以外はひたすら作業。色々な方と出会い、お話ししながら、手を止めることなく頑張りました。いい経験をさせていただいた事に感謝！！来年も行こうと心に誓いました。（山田）

編集後記 今回「当事者奮闘記」でお話を聞かせていただいた伊藤さんは、二度の大手術に耐えられた「強い精神力」をお持ちの方です。何事にも前向きで、和やかな笑顔と大きな笑いで明るさを体現しておられました。障害者パソコン講座の時も、常にニコニコと楽しそうでした。スポーツや写真撮影と趣味を沢山持たれており、お話を伺っていると、私達も元気と勇気を頂きました。伊藤さんのように前向きに歩んでいる方々に、また出会える事を楽しみにしています。（村上）



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）
編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL : 0898-64-2600 (代) FAX : 0898-64-3920 E-mail : soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp